

# 令和6年度野洲市歴史民俗博物館協議会結果概要議事録

日 時 令和6年11月25日(月) 14:00～16:10  
会 場 歴史民俗博物館研修室  
出席委員(敬称略) 難波洋三(委員長)・今井早奈枝(副委員長)・大橋信弥・  
中島誠一・光永 智・武原正樹  
欠席委員(敬称略) 母利美和・井上一稔・小濱玲子・永田征二  
事務局 北脇泰久教育長・福永清治館長・進藤武専門員・長尾健治専門員・  
齊藤慶一学芸員(展示解説のみ)・芦塚晶太技師  
傍聴人 1名

## 教育長あいさつ

昭和63年11月1日に開館し、開館36周年を迎えた。協議会委員、友の会や市民の皆様をはじめ多くの方々にお支えいただき、深く感謝申し上げたい。本日の会議では、今年度の事業報告や次年度の事業計画等について、委員の皆様のご意見をいただきたい。

## 委員紹介・職員紹介(自己紹介)

今回から永田征二氏(野洲市歴史民俗博物館友の会顧問)に就任していただいたことを報告。併せて各委員自己紹介及び職員紹介を行った。

## 展示解説

前日(11月24日)まで行っていた令和6年度秋期企画展「北村季吟一芭蕉の師・生誕400年記念」について担当学芸員が解説・案内を行った。

## 委員長及び副委員長選任(互選で任期は2年)

委員の今任期では、令和6年5月1日から新たに就任いただいたことから、委員長には難波洋三委員、副委員長には今井早奈枝委員が前任期に引き続いて選出された。

## 報告事項

### 1) 令和5年度事業実績報告について

・主要事業と前回の協議会以降に実施した事業を中心に報告。

概要：委員からは、入館者数の推移、中学生の職場体験等の質問があった。小中学生に対する資料の活用で、実物に触れる教育上の有効性を指摘する意見があった。

○委員 入館者数の推移はどのような状況か。

●事務局 令和5年度は、コロナから完全に回復していないのか、入館者数は低迷したままであった。ただし、令和6年度においては前年度よりも回復傾向にある。

- 委員 令和5年度の開館35周年記念企画展は、かなり面白い内容だったので、こうしたものを続けてやってほしい。職員には負担かもしれないが。
- 事務局 今後の企画展でも、銅鐸や古墳時代の遺物なども含めて考えていきたい。
- 委員 中学生の職場体験の内容は？
- 事務局 一般的な管理業務、資料の整理、そして来館者への展示解説など。
- 委員 やはり子どもたちには、実物を触れさせることが重要だと思う。
- 事務局 中学の時に職場体験を経験後、大学でも学芸員資格取得のための博物館実習に参加し、この方面に就職した子どももいる。
- 委員 古代米は今でも育てているのか。それには友の会も参加しているのか。(農業に関しては)令和6年度の春の農具に関する展示も、その土地の地質などの紹介もあり、大変良かった。
- 事務局 以前のように小学生等の市民や友の会と共に稲刈りや田植を行うことはないが、職員により、毎年栽培している。

## 2) 令和6年度事業経過報告と今後の予定について

・今年度の事業経過及び見込みについて報告

**概要：令和6年度の展示内容についての感想やドウタクくんやSNSの活用についても積極的であるべきであり、併せて銅鐸研究会での講演時での見せ方や広報・宣伝の在り方等の意見があった。**

- 委員 春の展示「ちょっと昔の農具」は良かった。土地に合った農具など分かりやすかった。また、夏の展示についても、子ども向けながら大人が見ても分かりやすく、特に博物館職員の仕事内容への焦点の当て方が良かった。
- 事務局 夏期の子ども向けテーマ展やドウタクくん活用により、既に子どもの入館者数は、昨年を越えている。
- 委員 博物館にとって重要なことは、資料や展示物の見せ方であると思う。例えば夏の展覧会だと、館の学芸員の似顔絵付きで仕事内容の紹介がなされている。このような手法だと親しみやすくいいと思う。
- 委員 ドウタクくんの活用をもっと行ってもいいと思う。子ども向けのイベント開催も有効であると思う。ところで、ドウタクくんは3代目とのことだが、それぞれの差異は？
- 事務局 初代はかなり老朽化しており、使用は困難な状況である。見た目は昭和的なものである。当館に配備されたのは2代目である。3代目は市政20周年を記念して観光物産協会で新調されたもの。
- 委員 以前はドウタクくんだったのでは？
- 事務局 ドウタクくとドウタクくんは別のキャラクターで、現在はドウタクくんが活動している。
- 委員 今年の9月が、前年や前々年度に比べ入館者数が大幅に増えている。
- 事務局 例年、9月は燻蒸の臨時休館の時期となるので、入館者数は減少する。燻蒸自体は、今年も例年どおりの日程だったが、今年度では友の会主催の秋祭りの広報・周知に工

夫を凝らした。その結果、昨年度の 1.5 倍以上の方が秋祭りに集まっていただき、比例して入館者数も増加した。

- 委員 これからの博物館には、情報発信には、SNS の活用が重要な役割を担うと思うが、取り組み状況については、どうか？
- 事務局 当博物館でも重要性を認識しており、現在アカウント開設などの準備を進めている。
- 委員 銅鐸研究会の周知は、どうしているのか？
- 事務局 友の会との共催事業であり、友の会ニュース等でも周知している。
- 委員 今年度の銅鐸研究会だが、実物を展示しながらの説明だと効果があり、学生や研究者の参加も見込まれるのではないか。
- 事務局 今年度後半に予定している次回の銅鐸研究会では、効果的な広報・宣伝を行っていききたい。

### 3) 令和 7 年度予算要求について

・来年度の予算要求の概要について報告

**概要；予算確保の見通しについて質問があった。意見としては、デジタルアーカイブとその SNS の発信力の重要性等があった。**

- 委員 令和 7 年度での予算確保の見込みは？
- 事務局 大変、厳しい。全国的に税収は上昇しているが、人件費や物件費も上昇しており、結果として厳しい状況には変わりはない。
- 委員 博物館業務に限らず、(行政全般において) 業務内容をもっと見直し、整理する必要があるのでは？止める勇気も必要だと思う。博物館事業においても、もっと整理して、必要なら当協議会からの意見という形をとって本庁部局へアピールしてもらいたいと思う。
- 委員 博物館の地域での重要性も(財政当局に)説明してほしい。
- 事務局 市では、各所管部で一定の枠予算をもって次年度予算を計上しているが、その中で、教育委員会に割り当てられた予算内で義務教育関係の予算(小中学校の改修工事等)が優先されるとの判断をされると強くは言えない。
- 委員 市史編さん事業費の減額理由については、先ほど説明があったが、史料のマイクロフィルムデジタル化は、令和 7 年度に終了するのか？
- 事務局 その予定である。
- 委員 皆様も御承知のとおり、令和 5 年 4 月の博物館法改正により、デジタルアーカイブについても資料保存・公開の手法として積極的であるべきとされている。特に公開に関しては SNS の発信力が重要となってくるが、そのためにも、専門の職員が必要となるのではないかと。一方、地方の博物館においては情報発信専門の担当職員を配置するまでの人的余裕がないのでは？
- 事務局 そのとおりである。文化庁の取り組みとして、広報面やデジタル化の分野での専門的人材を派遣して業務指導にあたる事業なども開始されている。滋賀県では県博物館協議会がその受け入れを行い、全体研修の実施などを計画している。そうした事業に

期待しているところである。

○委員 滋賀県博物館協議会等での同じ博物館同士の連携は重要である。

#### 4) 令和7年度事業計画案及び秋期企画展について

・来年度の事業計画及び秋期企画展の概要について報告

概要；展示やイベントの内容・手法等の個別的内容（図録等）について意見があり、これに対し、学校側の対応等も含めた意見交換となった。

○委員 令和7年度の企画展「発掘調査の50年」だが、通史的に展示構成とすると、焦点が全体にばらける可能性がある。発掘調査は民間開発やほ場整備の過程で行われる例が多く、その当時の社会状況からの視点など、独自の方法で展示するとか考えてほしい。

（その他、その当時の開発面積、予算、件数も含めて）

○委員 タイトル名などもインパクトのあるものにするとか、工夫が必要である。

○委員 今、北部合同庁舎にある埋蔵文化財の整理事務所における整理作業の公開や、こちらの収蔵庫での公開はできないのか？

○委員 収蔵庫ツアーとかも考えてほしい。

●事務局 当博物館の新収蔵庫での公開を検討している。

○委員 令和7年度の計画にはないが、民具の展示も今後お願いしたい。

○委員 図録の予算がないが？

●事務局 来年度については計上していない。

○委員 特別展等においては、写真とかもあるかもしれないが、展覧会終了後に形として残るのは図録だけである。だから本当はあった方がいいのだが。

○委員 令和7年度予算要求説明時の資料記載にあった当博物館のふたつの役割（銅鐸の専門博物館と地域博物館）の表記は非常にいい。昨今は観光等との連携が重視されているが、それだけではなく、教育の観点も重要である。これらのバランスが重要である。

○委員 ドウタクくんの活用も考えてほしい。

○委員 中学校から距離は近いが、中々博物館まで足を運ばない。学校としても地域史の重要性や博物館とのつながりの大切さも認識している。今後も博物館での展示やイベント関係の情報を粘り強く提供してほしい。

●事務局 当然お知らせする。

○委員 出前博物館という方法もある。人的余裕がないかもしれないが考えてほしい。子ども達に、実物を見せることのインパクトは大きく、子どもたちも興味が湧く。このような環境づくりが必要。これは文化財保護課での普及啓発にも言えることだと思う。

○委員 学校行事の中では難しい。

○委員 学校での行事の中では過大なら、博物館独自の事業として何か考えてほしい。

○委員 それならば、自主学習（課題）としての位置づけなので、可能である。

○委員 今年の夏に行われたような子ども向けの内容は、過去にもあったのか？（大変良かった。）

- 事務局 子どもたちが来館しやすい夏休み期間中には、例年クイズラリーやワークショップなどを実施している。
- 委員 市内の小中学生は、全てこの博物館に来ているのか？
- 事務局 かつては、小学校で歴史を学習する6年生が、授業で弥生時代が取り上げられる4～5月の期間にほぼ全校来ていただいていた。コロナ禍を経て、現在は全校とまではいかない。
- 委員 SNS を上手く活用すれば、市内だけではなく、全国から来館者が見込める可能性がある。

閉 会

## 野洲市歴史民俗博物館協議会委員名簿

任期 令和6年5月1日から令和8年4月30日まで

氏名	所属等
難波 洋三	奈良文化財研究所客員研究員（再任） 考古学
大橋 信弥	近江古代史研究会代表（再任） 古代史
母利 美和	京都女子大学文学部専任教授（再任） 近世史
中島 誠一	成安造形大学・滋賀文教短期大学講師（再任） 民俗学
井上 一稔	同志社大学文学部教授（再任） 美術工芸
今井早奈枝	野洲市文化財保護審議会委員（再任）
永田 征二	歴史民俗博物館友の会顧問（新任）
小濱 玲子	野洲市立篠原小学校校長（再任）
光永 智	野洲市立野洲中学校校長（再任）
武原 正樹	滋賀県立野洲高等学校校長（再任）